

第9回有識者委員会 議事要旨

1. 日時:平成31年3月7日(木)10:00~12:00

2. 場所:日本宇宙フォーラム 第1、2会議室

3. 出席者

(1)委員

永井委員長、岡町委員、奥村委員、佐宗委員、種家委員、西島委員、山本委員

(2)JAXA/事務局

若田光一、上森規光、小川志保、白川正輝、坂下哲也、永井直樹、加藤充康、鈴木和哉、他

4. 議事要旨

各議題において委員より頂いたご意見を、今後のきぼうにおける利用戦略、利用計画へ取り込むよう検討する。主な議論及びご意見は以下のとおり。

(1) きぼう利用テーマの状況(報告)

- 「きぼう」利用における科学研究テーマの募集・選定結果、選定された利用テーマの傾向、今後の募集方針、実施状況等について議論があった。
- 科学研究の利用促進のために、ISS・「きぼう」を産業界も利用がしやすいナショナルラボとして位置付ける方策の検討、データおよびサンプルシェアリング体制の構築、ISS・きぼうを社会のプラットフォームとしての必要性・価値の視点で整理を行うなどして、それぞれのコンセプトを強調していくのが良い旨のご意見があった。

(2) ISS・地球低軌道利用に関する周辺状況(報告)

- ISS運用に関する米国の動向、ISS・地球低軌道に関する各国の状況、ISS利用における成果とりまとめ状況等について報告し、議論があった。
- ISS・地球低軌道の利用では、各国別ではなく国際的に共同利用する等の新しいコンセプトを入れることが重要であり、科学研究テーマの募集については応募・利用状況等を分析し、領域の設定等を戦略的に進めることも必要とのご意見があった。

(3)「きぼう」利用戦略について ～長期的な展望を踏まえた「きぼう」利用の拡充について～ (討議)

- 「きぼう」利用プラットフォームの進捗状況について報告し、次のプラットフォームや社会貢献が見込める新たな領域等について議論があった。
- ISSの軌道に制約があるので、きぼう利用の在り方と将来の地球低軌道利用とは分けて考えるのがよい旨のご意見があった。
- 日本の小動物飼育装置は、世界をリードしており、成果非公開で世界の製薬会社に病態モデルマウスを打ち上げて使用してもらうビジネスも考えられる旨のご意見もあった。
- ISS運用・利用の自動化による無人化等、今後の国際宇宙探査も見据え有人に拘らないシナリオも考えられる。また、将来、低軌道利用については大衆化していくことを考え、一般の人が宇宙で暮らす時の精神面・心理面からの研究、使う側の立場での閉鎖空間のデザイン等も必要とのご意見があった。

以上